

# Beyond a Boundary

[イタリア・カナダ・日本 共同制作 加藤範子 + Dance-tect ダンス公演]

at TOKYO

境界を超えて

◎企画・構成◆加藤範子  
◎出演◆クラウディオ・マランゴン、マキシーン・ヘップナー、瀬川貴子、加藤範子  
◎音楽◆片山泰輝

2014年9月23日(火) 18:00開場18:30開演

場所: Temporary Contemporary 東京都中央区月島1-14-7旭倉庫2F 電話: 03-3533-0880

都営大江戸線・東京メトロ有楽町線、月島駅下車。7番出口の階段を登り、目の前の交差点を右奥へ150mほど直進。月島スポーツセンターを過ぎて横断歩道を渡ると左角に大きな建物「旭倉庫」があります。レストラン「スヘインクラブ」の隣の鉄扉の中のエレベーターであかった2階にエントランスがあります。旭倉庫にはお客様用の駐車場はございません。旭倉庫手前角や佃大橋下など、お近くのコインパーキングをご利用ください。

入場料: 前売/4,000円(当日/4,300円)

主催: 加藤範子 + Dance-tect

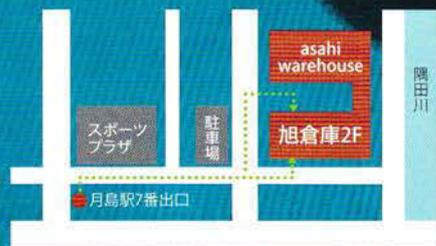
後援: 日本体育大学ダンス研究室

協力: Borderlinedanza, **ja.i.d.**

◎チケット取扱い: <http://www.norikokato.com>

チケットぴあ (Web窓口)、日本体育大学ダンス研究室 (03-5706-0934)

◎問い合わせ: 080-3248-7239 (代表: 加藤) mail: dancetect@gmail.com



art work: Sakamoto Masayoshi (Tin Pan Alley Tokyo, Japan)



クラウディオ・マランゴン



マキシーン・ヘップナー



瀬川貴子



加藤 範子

瀬川貴子、加藤範子

# Beyond -境界を超えて-

# a Boundary

[イタリア・カナダ・日本 共同制作 加藤範子+Dance-tect ダンス公演]



photo by Maurizio Malangone

## クラウディオ・マランゴン Claudio Malangone (Italy)

精神科医、振付家/ダンサー/ ボーダーライン・ダンス・カンパニー主宰/Ra.I.D芸術監督

クラシックとコンテンポラリーを基礎にイタリア国内及び海外にて、スザンヌ・リンケ、カロリン・カールソン、マチルダ・モニエ、ニーナ・ワット等のダンサーとして活動する。1998年「ボーダーライン・ダンス・カンパニー」を主宰。2000年サレルノ・ダンス・フェスティバルでは「実験的と研究を重ねた影響力のあるオリジナルな振付」と称され受賞、2004年「優れたアイデアによる優秀振付作品」として作品『Freez』がネブチューン市ミュージック賞を受賞。

その他ダンサーやダンス教師を目指す若手育成にも力を入れており、コンテンポラリー・テクニク、振付論、ダンサーの解剖学や音楽論を展開する。2012年より加藤範子との共同制作を展開、来日/来青公演を行う。2014年にはベトナムでの招聘公演を行うなど、その活動を世界へ広げている。

精神科医の仕事はナポリ第2大学精神医学研究所のセラピスト主任として精神/肉体障害者へのダンス・セラピー治療に力を入れている。2010年よりRa.I.D.の芸術監督に就任。



## マキシーン・ヘップナー Maxine Heppner (Canada)

振付家/ディレクター/講師/パフォーマー/Across Ocean主宰

全世界を通してダンスカンパニーから大学講師、そしてゲストアーティストとして招待されダンスだけでなく、様々なシーンで活動する。1989年より、北米、東南アジアのコンテンポラリーアーティストとともに『球体面メソッド』を通じて活動を始め、1999年/2003年とオーストラリアでのプレミア公演を迎える。1995年にアクロス・オーシャンを設立。1996年より定期的にヨーロッパで活動中。2001年にはカルフォルニア州パークレー、カナダ、トロントにて初めての写真展も行う。ビデオワーク『パパーチャ』では、2005年国際ビエンナーレジョグジャカルタに参加。2006年『メモリー』リサーチプロジェクトに名声あるシニアアーティスト・チャルマーフェローシップを授与。同年、同プロジェクト『KISS』のデモンストレーションを来日発表の他、トロント、モントリオール、ジャカルタなどにて開催。現在、コンテンポラリーアートとのコラボレーションを主に、スタジオワークや音楽、ビジュアルアート、フィルム、ビデオ、ライブ公演、アート・エキシビジョンなどのプラットフォームを制作する。



## 瀬川貴子 Takako Segawa (Canada/Japan)

ダンサー/Sphanic Arts Dance Theater主宰。

高知県出身、日本体育大学卒業後に渡英。ロンドンコンテンポラリースクール終了と同時にロンドンにて活動を開始。ケリー・ニコラスやIADダンスカンパニーで活動後、2001年から2005年までギリシャで活躍。初の日本人ダンサーとしてギリシャの国際ダンスフェスティバルに招聘。アテネオリンピック開会式の創作活動メンバー。2005年にはスウェットガルト国際ソロフェスティバルに招聘。同年より振付家マキシーン・ヘップナーのアシスタント兼ダンサーとしカナダへ渡米。また、2007年高知県文化財団より助成を受け、高知県にて「Sod」公演を行う。現在はカナダに移住。ダンスカンパニーCorpusにて世界ツアーに励み(www.corpus.ca)、アクロス・オーシャンのアシスタントディレクターとしても活躍中。(www.acrossoceans.org)ダンサーSphanic Arts Dance Theater主宰。



photo by Anna Rulecka

## 加藤範子 Noriko Kato (Japan)

インディペンデント・ダンスアーティスト、Dance-tect主宰

弘前市出身。1998-1999年ラバンセンター・ロンドン留学(PDDS取得)。2003-2005年までドイツ、ケルンに滞在、作品発表。2005年よりDance-tect主宰。2006年A l'abodarge 『Chaching The Whale』に参加、バンコク/マニラ/京都/東京にて公演。2007年「写真0年 沖縄」展の関連イベントにて沖縄県立美術館のオープニングにて作品発表。2008年Sari Palmgrenの企画するダンス・ドキュメンタリー映像に参加。2009年国際芸術センター青森共催公演『痕跡と忘却の波紋』主催。2011年春/夏ストックホルムにてEnsemble ALAZARTIに参加/公演の他フィンランドにて『Bright Tapestry』滞制作。同年イタリア、サレルノにて日本 | イタリア「対話」公演参加を機に継続的に両国で公演を行う。2012年には公益財団法人青森学術文化振興財団の助成を受け共同制作を青森にて発表。2013年にはイタリアにて公演および作品アイデアを出発点とした継続プロジェクト『Motion emerge Notions』が行われている。日本体育大学大学院修了。現在ダンス活動とともに慶応義塾大学他非常勤講師。

## ●出演者によるスペシャル・ワークショップ

(クラウディオ・マランゴン、マキシーン・ヘップナー)

日時：2014年9月19日 19:00~21:30

会場：弘前市民文化センター 第一練習室

料金：無料(要申込)

申込：氏名・連絡先を添えたメール、もしくは電話にてご応募ください

申込/問い合わせ：080-3248-7239(代表:加藤) mail: dancetect@gmail.com

その他：ダンスの経験は問いません



\*写真はイメージです。

